

第27回 市長と話そうの様子

開催日時	2026年6月15日（月） 18:30 ～ 20:00	場所	臼杵市役所 野津庁舎 301会議室
団体名	臼杵市農業後継者「二葉会」		
団体概要	臼杵市に在住する農業青年が自発的に活動できる場として、会員相互の親睦を図るとともに、学習や交流活動を通じて自己研鑽に励むことを目的とする。 農業青年交流イベントへの参加、大分県農林水産祭への出店、各種研修会への参加、こども向けの農作業体験や農機具の実演、大分県農業青年プロジェクト実績発表大会への参加などの活動を行っている。		
話し合いのテーマ	①二葉会の活動について ②担い手の確保・育成について		
参加者	7名（団体メンバー6名、西岡市長）		

対話の様子

対話では、野津地域の若手農業者組織である「二葉会」の活動状況や、今後の農業を支える担い手の確保・育成などについて意見交換が行われました。参加者からは、以下のようなお話やご意見がありました。

- ・ 二葉会は臼杵市内で活動する若手農業者の組織。定例会を月1回開催し、情報交換・経営や資材の勉強会・試験やプロジェクト発表などを実施している。
- ・ コロナ禍以降の移住等で農業に関心を持つ人はいるが、住居の確保や農繁期のピークが重なり受け入れが難しい。働きたいというニーズを逃さないためにも、住まいや相談窓口などの受け入れ体制の整備が必要だと感じている。
- ・ 就農準備資金・経営開始資金などの新規就農支援制度は、研修中や就農初期の大きな支えになっている。
- ・ 生産規模を拡大する際の機械・設備投資の負担は、支援があっても非常に大きい。既存農家の高齢化や後継者不在に対し、第三者継承制度を活用して設備や農地を引き継ぐことができれば、初期投資を抑えたスムーズな就農につながると期待している。
- ・ ファーマーズスクール等での研修を経ていきなり就農する流れはハードルが高く感じられるため、まずはアルバイトや短期雇用、体験から入れる仕組みづくりが有効ではないか。その経験を通じて本気で就農を希望する人に対し、市の相談窓口へのスムーズな誘導や分かりやすい支援制度の説明を行うことが重要だと考えている。
- ・ （売り物にならない）規格外のピーマンやカボスの枝葉を活用したクラフトジンの開発を進めており、将来的には臼杵の新しい名産品にしたいと考えている。
- ・ 農林水産省の「農業女子プロジェクト」等の活動として県内マルシェへ出品しており、今後は週末に多くの人が集まる「のつてらす」を活用し、二葉会としてもマルシェを開催したいと考えている。
- ・ 臼杵市（野津地域）は西日本有数のピーマン産地である一方、「ピーマンといえば臼杵（野津）」という知名度がまだ十分に高くないと感じている。こどもを対象としたピーマンの収穫体験や、「のつてらす」でのイベント、クラフトジンの取組等を通じて、産地としての知名度向上を図っていきたい。

市長からは、以下のような話がありました。

- ・ 臼杵市がユネスコ食文化創造都市である重要な要素として臼杵（野津）の農業があり、地元根付いた農業の取り組みをユネスコの枠組みでもっと外へ発信していきたい。
- ・ 若い世代が頑張る姿やイベントを通じて、こどもたちが将来の仕事として農業を具体的にイメージしやすくなる。皆さんのような若いメンバーが「臼杵で農業をすると面白い」という雰囲気をつくってほしい。市としても、情報発信や支援制度の面で形をつくり、「臼杵の農業は面白い」と思ってもらえる環境を整えていきたい。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。“市長と話そう”では、市民の皆様の声を聴き、一緒に考え、よりよい臼杵市の未来を描くため、今後もさまざまな団体と対話を行っていきます！

